

グローバルセンター報告(97)

第10回 ISO/TC224 総会参加報告

国土交通省
国土技術政策総合研究所
下水道研究部 下水道研究官

北九州市 上下水道局
西部工事事務所長

日本水工設計(株)
海外部 技術課長

榊原 隆

田中文彦

石塚 奥人

1. はじめに

本稿は2015年4月13日から17日までの5日間、ウィーンにあるオーストリア規格協会にて開催された第10回 ISO/TC224 総会について報告するものである。

2. 総会の概要

ISO/TC224 総会はこのところ約2年毎に開催されており、前回は2013年6月にイスラエルのハイファで開催された¹⁾。今回総会には世界13か国から約40名が参加した。うち日本からの参加者は表-1に示す8名であった。また会議スケジュールについては表-2に示す通りであった。

3. 各WGの議論

3-1 WG1:用語の定義

用語の定義はISO24510中に51項目について示されている。その後各WGごとに様々な用語が提案されている。これらを統一し新しい用語に関する規格を発行するとともに、他の規格で定義されている用語の除去、CENなどを含めた既存の定義を参照することが検討されている。

3-2 WG5:規格の適用事例

ISO24510シリーズの普及活用を図るWGであり、活用事例の収集整理はほぼ完了しているとのことである。今後はBenchmarkingの考えを導入して評価することも検討されている。

3-3 WG6:アセットマネジメント

3種類の国際規格を準備中である。うちISO24516-1(水道管路のアセットマネジメントガイドライン)についてはCD(委員会原案)からDIS(国際規格案)に進めるための投票中。ISO24523(上下水道のベンチマーキング)についてはウィーンでの会議において各国から上がったコメントについての対応について協

表-1 日本からの参加者

氏名	役職等
榊原 隆	国土交通省 国土技術政策総合研究所 下水道研究部 下水道研究官
蛭江 美孝	国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 主任研究員
田中 文彦	北九州市 上下水道局 西部工事事務所長
水谷 哲也	仙台市 建設局 経営企画課 経営戦略室長
宮垣 融	公益社団法人 日本水道協会 水道技術総合研究所 主任研究員
澤井 隆之	公益社団法人 日本水道協会 研修国際部 国際課 課長補佐
館 隆広	(株)日立製作所 インフラシステム社 水・環境ソリューション事業部 主管技師
石塚 奥人	日本水工設計(株) 海外部 技術課長

表-2 会議スケジュール

月日	時間	会議名称
4月13日 (月)	9:30-10:30	議長会議
	10:30-17:00	第1回全体会議
4月14日 (火)	8:30-12:00	WG1:用語の定義
	8:30-17:00	WG6:アセットマネジメント
	8:30-17:00	WG7:クライシスマネジメント
	17:00-19:00	WG5:規格の適用事例
4月15日 (水)	8:30-12:00	WG6:アセットマネジメント
	8:30-12:00	WG7:クライシスマネジメント
	13:00-17:00	WG8:オンサイト排水処理
	13:00-17:00	WG9:水関連の事故検知
	19:00-	懇親会
4月16日 (木)	8:30-17:00	WG9:水関連の事故検知
	8:30-12:00	WG11:雨水管理
	14:00-17:00	WG12:水の効率的利用
	17:00-19:00	議長会議
4月17日 (金)	8:30-17:00	第2回全体会議

議し、同じく DIS に進めるための投票にかけることになった。ISO24516-3 (下水管路のアセットマネジメントガイドライン) については、欧州各国並びに日本から文章の見直しに関する提案が提出されたため6月11～12日にかけてオランダ・デルフトにおいてタスクグループによる会議を開催し、内容について協議することとなった。詳細については仙台市水谷氏の別稿を参照されたい²⁾。次回第10回会議については9月28～29日にカナダ・ケベックで開催されることとなった。

3.4 WG7: クライシスマネジメント

3種類の国際規格等を準備中である。うち ISO24518 (危機管理規格) は最終国際機関案 (FDIS) 段階で、発行に向けた手続き中。ISO24520TS (優良事例集) は、作成原案 (WD2) 段階であり各国からコメントを募集中。また、ISO24525TR (事例集) 作成に向け、上下水道事業体向け危機管理事例アンケートを検討中である。

3.5 WG8: オンサイト排水処理

ISO24521 は既に国際規格案 (DIS) 投票済みである。また当規格は、既に発刊されている類似の WHO 等のガイドラインとは関連が無いことが説明された。

3.6 WG9: 水関連の事故検知

WG7 との重複を避けるため、WG7 と Liaison することが約束された。WG9 と WG7 の違いは、WG9 が通常時に予測できる範囲で起きる事象を対象としているのに対し、WG7 では危機的状況を対象にしていることであると説明された。

3.7 WG10: Flushable Products

流れにくさや施設への影響を評価するための試験方法を検討中であり、その条件等について議論が予定されている。

3.8 WG11: 雨水管理

日本が提案し、投票の結果 WG の設置が承認され、今回が第1回目となる WG である。筆者のうち榊原が Convener (議長) を、田中が Expert (専門家) を、日本サニテーションコンソーシアムのピエール・フラマンが Secretariat (事務局) を務める (今回は石塚が代理)。

第1回全体会議で趣旨説明したところ、雨水システム (Stormwater system) は下水システム (Wastewater system) に包含されるのでないか、Planning からどうやって Design に至るのか 等の質問がなされた。

また WG11 では事務局より、規格の Scope や規格文章の構成案について説明を行った。主要な論点は以下であった。

○規格の範囲: 現時点での規格の範囲は、計画 (Planning) と評価 (Evaluation) のみを対象としているが、計画 (Planning) だけに拘らない方が良いとの提案を受け入れ、タイトルを以下のように変更した。

【旧】

Service activities relating to drinking water supply and wastewater systems - Stormwater Management - Guidelines for Planning of Stormwater System in Urban Area

【見直し後】

Service activities relating to drinking water supply and wastewater systems - Stormwater Management in Urban Areas - Guidelines

またこれは、第2回全体会議において、最終的に以下のタイトルへと見直しされた。

【最終】

Service activities relating to drinking water supply and wastewater systems - Guidelines for Stormwater Management in Urban Areas

○欧州規格との整合: 欧州における下水・排水に関連する規格の1つである EN752 によると、雨水は Surface Water として定義されており、それに準ずるべきという意見が強く主張された。降雨強度の小さい欧米での Stormwater Management が質 (雨水排水による環境への影響) をメインに捉えているのに対して、日本をはじめアジアモンスーン地帯の各国のように降雨強度の大きい地域では、量 (浸水対策) も大きなウェイトを占めているといった地域特性の違いも用語の定義に影響していると思われる。

○Non-structural な対策の追加: 筆者のうち田中がプレゼンテーションした北九州市での浸水対策事例は注目され、特にソフト対策については、これを規格に盛り込むべきという賛同の意見があった。

これらの意見を受けて、総会終了後事務局側で作業原案を作成し6月30日に TC224 事務局に提出した。8月31日を期限として参加国よりコメントを求めべく回付中である。今後は WG11 に対応した国内委員会を設置してコメントへの対応等をすすめる予定で



WG11 での議論

ある。

なお、次回会合は、WG12と共同で2015年11月に開催する方向で調整中である。

3-9 WG12：水の効率的利用

シンガポールが提案し、今回が第1回目となるWGで、シンガポールがConvenerを、カナダがCo-Convenerを務める。シンガポールで発効済みの規格“Water efficiency management systems-Requirements with guidance for use”をベースとして、規格開発を進める方針が示された。今回規格は、水の利用者に対する規格であり、これまで事業者側を対象にしてきた規格とは趣が異なる。また、認証付きの規格(MSS: Management System Standard)であることもあり、ドイツ・オーストリア等は(投票により承認されたにもかかわらず)規格開発への反対意見を述べる一幕もあった。しかし最終的には、取作業原案の作成をすすめてその結果をみて再度議論することで合意した。次回会合は2015年11月の第2週か第3週にシンガポールまたはカナダで開催される予定である。

4. 全体に係わる議論

第1回全体会合ではTC224の範囲(「上下水道サービス」だけでなく、「製品」やその「利用者」、また「認証規格」も対象にするかどうか)と構成(WGが多いため、いくつかの小委員会の下にまとめるか)につい

て議論がなされた。範囲については、タスクグループを設立して議論、また構成については議長会議で検討することとなった。第2回全体会合では、各WGから議論の内容と結論が報告された後に、第1回全体会合でも議論されたTC224の範囲や構成についてタスクグループにより調整すること等が確認された。これには日本から筆者のうち榊原が参画することとなった。続いてイスラエルからは水供給の危機時の対応に関する規格(Guidelines for the planning and execution of water distribution for population in urban areas during a water crisis)開発提案に関するプレゼンテーションが行われた。規格の対象が特定のケースに限定されており、ISO規格として馴染まないのではといった反対意見も出された。そのため、この分野を取り扱うWG7で調整することとなった。

次回総会は、これまでは隔年開催であったがWGが増えたため、2016年6月の最終週に開催することとなった。開催地は調整中である。

〈参考文献〉

- 1) 堀江信之：ISO/TC224「上下水道サービス」第9回ハイファ総会報告、下水道協会誌、Vol.50, No.611, 2013
- 2) 水谷哲也：ISO/TC224/WG6/TG4(下水管路のアセットマネジメント)デルフト会議報告、下水道協会誌、Vol.52, No.635, 2015



総会参加メンバー

